

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 **オリーブ**)

事業所番号	0670800770		
法人名	医療法人社団 さつき会		
事業所名	グループホーム 明日葉		
所在地	山形県酒田市曙町2丁目24番地の2		
自己評価作成日	令和元年10月29日	開設年月日	平成15年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・常にご利用者の声に耳を傾け、希望を少しでもかなえられるよう努めている。
- ・地域の幼稚園や小学校との交流など、楽しく交流している。
- ・少しでも外出し、社会参加の機会を多く持つようにしている。
- ・同法人の老人保健施設と連携し、医師や看護師と相談している。また、研修や防災等についても一緒に行い、連携を図っている。
- ・体操を行ったり、ADLが低下しないよう体づくりを行っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 元年 12月 13日	評価結果決定日	令和 2年 1月 6日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム理念を念頭に、利用者・職員同士が笑顔を絶やさずコミュニケーションをとりながら、「家」のような生活を送り、幼稚園、小学校、地域との交流・連携を大切に、地域に根差しています。職員自ら課題をあげ自己評価を上・下半期に実施しレベルアップに繋げており、毎月の法人内研修等に参加し、事例発表会では毎年発表するなどしてサービスの統一、利用者の介護に役立っています。資格取得の際には、先輩職員からのアドバイス・協力もあり、職員を育てる体制も整っています。同法人の医院・看護師・老人保健施設と連携を密にし、利用者が最期まで安心して生活出来るように支援している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を理解し、明日葉三原則「明るい挨拶、明るい笑顔、明るい声掛け」を心掛け、その人らしく生活できるように支援するとともに、地域の交流も大切にし、生きがいある支援に努めている。	ホーム理念のほか明日葉三原則を大切にしてい、明るい笑顔で挨拶や声掛けし、個性と人権を尊重した支援をしている。日々のコミュニケーションを大事に希望を取り入れ理念に沿った取り組みを行い利用者のケアに反映している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と防災訓練・夏祭りを行ったり、幼稚園・小学校と交流を行っている。また、法人の広報誌明日葉だよりを通じて活動報告をしている。	法人合同の敬老会・クリスマス会ではギター演奏やミニコンサート、日本舞踊のボランティアが来訪している。幼稚園児とじゃがいもを収穫したり小学校の運動会に参加して交流を深め、また地域の文化祭の見学に利用者を出かけ一緒に楽しんでいる。広報誌を地区回覧して活動報告し防災訓練等への参加も呼び掛けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で、近隣の自治会や家族などに認知症について話す機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市、地域包括支援センター、家族へ報告し、話し合いを行っている。活動計画やその報告、認知症のことや、災害時の取り組みなどについて情報提供を行っている。	2ヶ月に1回開催し、行事や活動報告、利用者の状況や気付きなどを話題にしている。ヒヤリハット等の報告、認知症についても話し合われ、情報提供と認識を深めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	集団指導や地域密着部会などで話し合ったり、疑問点があればその都度相談している。	酒田市主催の法改正の説明や集団指導の会議等に参加し、さらに、困難事例等の相談も行っている。介護相談員は日程を決めて来訪し、利用者からの相談等にのり職員にも声を掛け、意識向上に繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束について、施設内研修会を行い、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。常に入居者の状態を見守り、確認し合いながら身体拘束ゼロを継続していく。	外部・内部研修にも参加しマニュアルも整備して職員は理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。具体的には、筋力の低下している利用者には見守りや、すぐに駆け寄って対応するなど職員同士で声を掛け合いながら、行動を共にする工夫等を実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修会で学んだことを実践し、虐待をしない・見逃さないよう職員が同じ意識を持ってサービスを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修会で勉強している。また、運営推進会議で家族へ情報提供している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者、家族の方に理解して頂くように施設見学や十分な説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者とは常に会話をし、話しやすい環境を作り、家人とも来設時に多く話す時間を設け、密に意見のやり取りをしている。また、月に一度介護相談員が来て、入居者と話をしてもらっている。	話しやすい雰囲気づくりに取り組み、利用者・家族等とコミュニケーションを大事にし信頼関係を築いている。面会は自由で家族の了解を得た友達も来訪している。遠方の家族には手紙や明日葉だよりを活用し、生活情報も提供して、安心した生活が出来ていると家族等から感謝の言葉をもらっている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ケア会議を行い、一人一人が自由に意見を出せるように心掛けている。そこで出た意見やアイデアを毎日の行事などで反映させたり、業務改善に生かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が、上下半期で評価をし、向上心を持って働いていけるように努めている。休みなどもきちんと取れ、充実した職場環境になっている。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の毎月の研修会に参加するよう働きかけたり、事例発表を行っている。外部研修にも参加している。資格試験対策も行っている。	自己評価は毎年実施し、上・下半期に自分で課題を掲げ自己研鑽に努め、資格試験対策については、法人で情報提供して各職員が取得に向け勉強し、さらに、先輩職員からのアドバイスや協力を得るなど協働している。毎月の法人合同の研修会に、受講・研修を重ねサービスの統一に役立てており、事例発表会では毎年発表し、法人全体でレベルアップに繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修会や地域密着型部会などで意見交換し、自施設に活かすよう努めている。	酒田市介護サービス事業者連絡協議会、山形県グループホーム連絡協議会庄内地域に加入し、意見交換や情報交換を行っている。疑問点や不明な点が出た場合は、すぐに連絡を取り合い互いに連携し、日々のサービスや職員育成等に役立つ情報収集に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接し、本人、家族から話を伺い、安心して生活出来るよう対応に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面接を行い、話を聞くように心掛け、家族の心境によりそい、本人様が安心して生活出来るよう信頼関係を築くよう心掛けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族と相談し、必要とするサービスの提供に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が主体となって生活出来るようサポートすることで、家事など行えるようにしている。また、職員とともにいたりしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族と話し、入居者を支えるよう努めている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出外泊は自由に行っていただき、関係が途切れないように支援している。面会についても、自由に行って頂いている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を考え、希望を聞いたり、その都度部屋や席を替え、孤立しないようしている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後の流れを説明し、スムーズに不安なく移行できるように努めている。退去後も相談に応じたり様子を伺ったりしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話の中から希望や意向を汲み取り、困難な場合は家族に聞いたり、本人の立場に立って検討するようにしている。	利用者の思いを引き出す工夫は、声掛けや表情から把握に努め、本人が納得するまで思いを聞くなど互いに意見を出し合い、記録し職員で共有している。日々の食事や健康についても、関わりの中で小さな変化に気付くように配慮している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の生活歴やアセスメントをとり、把握に努めている。また、家族、ケアマネ、地域包括から情報を収集し、把握するように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の心理や精神状態、やる気に合わせ無理に頼まず、本人の意思で一日の過ごし方を決められるようにしている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネ、医療関係者、本人及び家族と相談して、本人の状態に合わせ介護計画を作成している。また、毎月会議での意見を介護計画に反映させている。	安心して楽しく暮らせるために、その人が大切にしているものを取り入れ、身体面・精神面等の自立支援を基本に出来ることは何かと考え、担当職員を中心に本人の立場に立った介護計画を作成して、職員全員で共有し取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日排泄、水分、食事など健康状態についてチェックし、日々の変化や気づいたことなど連絡ノートに申し送り、情報の共有を図り、問題点・改善点などを話し合い介護計画に反映させている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>幼稚園児と交流を図ったり、地域の文化祭に出展したものを見学したり、イベントに参加したり地域の方々と交流を図っている。</p>			
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者のかかりつけ医を把握し、受診の支援を行っている。また、法人の管理医と協力体制を整え、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	<p>利用者全員が希望により隣接する管理医の同法人クリニックを主治医としており、毎週の定期往診や看護師との連携で小さな変化も気付くなど、安心な医療体制を整えている。結果は家族等に毎月のお便りや電話で知らせ、共有している。</p>		
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>毎日、体調の悪い方の情報を同法人の看護師に相談し、必要があれば受診している。</p>			
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際に病院、家族と連絡を取り、状態の把握に努め、退院後もスムーズに生活出来るよう連携を図っている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居者の状態に合わせ、本人家族の意思の把握に努めている。事業所で出来ることを説明し、場合によっては法人内の老人保健施設について説明紹介している。</p>	<p>入居時に事業所の方針を説明し、利用者の状況変化に応じて主治医と相談しながら家族等と話し合いを繰り返し、方針を統一して希望に沿えるように取り組んでいる。隣接する同法人の老人保健施設に移動しても面会に行くなど、その後の関係性を大切にしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの作成や研修会を行い、緊急時に適切な対応ができるよう努めている。主治医や法人の医師・看護師に報告し、対応できる体制を整えている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、消防署・自治会・近隣企業の協力を頂いている。夜間・地震・津波を想定し、隣接する老人保健施設へ避難する訓練も行っている。	事業所単独と隣接する老人保健施設と合同で火災・地震・水害を想定した避難訓練を定期的に行い、夜間にも実際に行っている。訓練には消防署・自治会・近隣企業の参加を得て協力体制を築いており、また非常食・発電機・ヘルメットなども準備している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修会やケア会議を行い人格やプライバシーを損ねないよう努めている。マニュアルも整備し、利用者への対応も気を付けている。	利用者で個別の話をするときは、居室でドアを閉めてゆっくり思いを聞くなどプライバシーに配慮している。得意なことを発揮出来る場面作りは職員が利用者一人ひとりに合わせた声掛けを工夫し、達成感を味わってもらい笑顔を引き出している。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るよう、声掛けを大切にし、働きかけている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	細かい日課はなく本人の意向を声掛けし、確認しながらその人らしく過ごせるようにしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者と相談し、その日に着たい服を選んでもらっている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものの希望をとり、反映させている。また、準備や片づけは、職員と一緒に楽しみながら行っている。	利用者の希望を取り入れた法人の管理栄養士による献立を職員が調理し、代替えや食事形態にも対応した栄養バランスの良い食事を提供している。利用者から後片付けや食器拭きの手伝いがあり、おやつ作りなど職員と一緒に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士より協力により、栄養バランスの良い食事を提供している。食事摂取量や水分摂取量を記録し、個々の状態の把握に努めている。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医師より口腔ケアの技術指導をしてもらい、毎食後に口腔ケアを実施している。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握し、トイレで排泄出来るよう声かけを行い、自立支援を行っている。	「日常生活チェック表」に利用者一人ひとりの身体状況を毎日記録し、職員は共有して排泄パターンに合わせてトイレ誘導をしている。言葉に出せない方からのサインを見逃さないように声掛けして、プライドや羞恥心にも配慮している。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は、野菜を多く取り入れ、毎日の体操やゲームなどを行い排便を促す取り組みを行っている。また、医師にも相談し、排便コントロールを行っている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、本人の希望を取り入れながら適切な回数を行っている。また、季節に応じて変わり風呂なども行っている。	午後の時間帯に入浴日を設定しているが利用者から希望があれば浴えるようにしており、同性介助や困難な方には2名で介助するなど安全面にも配慮している。バラ・ゆず・入浴剤などの変わり風呂や職員との会話も弾みながらくつろいだ気分で入浴を楽しんでもらっている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体の状態に応じて、ベッドで休んでもらったり、安心して夜寝られるよう話を聞いたり不安にならないよう対応している。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、副作用など確認し、利用者の症状の変化などに注意している。服薬支援ではダブルチェックを用いて職員二人で確認を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味や楽しいことを把握し、自主性を尊重しながら活動してもらっている。入居者の状態に合わせて役割分担をお願いしている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人、家族の希望に応じて、自宅へ外出したりして気分転換を図っている。毎月外出計画を立て、希望があったり天気が良かった日はドライブに出かけている。	ドライブが好きな利用者が多く、外に出て気分転換を図ってもらいたいと毎月外出計画を立てて(冬期間も)出かけ、帰りの車中では利用者の満足したにこやかな笑顔に溢れている。文化祭・コンサート・幼稚園や小学校との交流など地域行事を大切に継続して参加している。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の能力に合わせて管理してもらっている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話の持ち込んで頂き、居室内で自由に電話をかけている。また、手紙のやり取りも自由に行っている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音を調整したり、ドアの開け閉めの音なども注意し、不快に感じないようにしている。ホールには毎月の写真を貼ったり、季節に応じた装飾をしている。	玄関を中心に左右対象にユニットがあり全館床暖房が施され、ホールの周りに各居室があって自然に利用者が集まるようになっている。季節感のある飾り付けや行事の写真を見ながら話題も広がっている。玄関前を利用し、いも煮会や流しそーめんなどの行事が行われている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや居室で気の合う人と交流したり、ソファで一人ゆっくりできるような環境を整えている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具など自由に持ち込んでもらい、ベッドの位置も自由に決めてもらっている。畳希望の場合も対応している。	モダンな色別のドアが付いた居室にはベッド・布団・チェスト・ロッカーが備え付けてあり、持ち込み品やベッドの配置なども自由で畳希望も対応して自分好みに出来るようにしている。布団に鈴を付けて居室での安全な暮らしを支援している。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	わかること、できることについてアセスメント・モニタリングを行い、情報を共有し、自立した生活が送れるよう支援している。		